

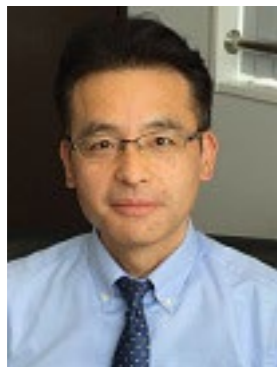
兵庫県保険医協会第58回総会のご案内

平素は兵庫県保険医協会の諸事業にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
さて 弊会はこの1年間、開業保険医の経営と生活・権利を守り、国民医療の充実をめざし活動してまいりました。今後とも医療・社会保障の充実と発展に一層尽力する所存です。総会議事・記念講演会にご参加いただきますよう、お願いいたします。

日 時 **6月21日(日)** 会 場 **兵庫県保険医協会会議室**
・13時30分～ 総会議事 ・15時20分～ 総会記念講演

細胞から老化を科学する

— 加齢性疾患の新しい見方と治療への期待 —



大阪大学 微生物病研究所 分子生物学分野 教授

原 英二 (はら えいじ) 先生

なぜ人は年をとるにつれて病気になりやすくなるのでしょうか。近年の分子細胞生物学の研究から、その一つの答えとして「細胞老化」という現象が注目されています。

細胞老化とは、傷ついたり過剰なストレスにさらされたりした結果、細胞分裂を永久に停止した状態のことです。こうした細胞(老化細胞)は加齢とともに体内に蓄積し、炎症性物質を分泌することで周囲の組織を傷め、がんを含めた様々な加齢性疾患の発症を促進することが分かってきました。この

ため、現在、老化細胞を選択的に除去する薬剤(セノリティック薬)の開発が世界中で進んでいます。

しかし一方で、老化細胞の中には組織の恒常性維持に重要な働きをするものも存在し、一律の除去は必ずしも有益でない可能性も示唆されるようになってきています。本講演では、細胞老化の仕組みと体内での役割について紹介するとともに、セノリティック治療の現状と課題についてもお話しします。

【原 英二 記】

【ご略歴・プロフィール】1993年 東京理科大学大学院博士課程修了(理学博士)、1993年(米) University of California, Berkeley ポスドク、1995年(英) Imperial Cancer Research Fund Laboratories ポスドク、1997年 京都府立医科大学 医学部 公衆衛生学教室講師、1998年(英) Cancer Research UK, Paterson Institute グループリーダー、2003年 徳島大学 ゲノム機能研究センター蛋白情報分野教授、2008年 公益財団法人がん研究会 がん研究所 がん生物部部長、2015年 大阪大学 微生物病研究所 分子生物学分野 教授、同 免疫学フロンティア研究センター老化生物学教授(兼任) 所属学会: 日本癌学会(2012年～評議員)、日本分子生物学会(2019年～理事)、International Cell Senescence Association(2021年: 年会長)、専門分野: 分子生物学、分子腫瘍学、受賞歴: 2014年 日本癌学会 JCA-Mauverny Award、2021年 高松宮妃癌研究基金 学術賞、2025年 文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)

ご参加の場合 FAX 078-393-1802 までご返信ください

議事から出席します (医療機関名) 記念講演に参加します () 人 (お名前)

※すでにお返事を頂戴している場合は、失礼の段何卒ご容赦ください
お問い合わせは TEL 078-393-1817 組織担当 楠(クスノキ) まで

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2026年5月25号 No.368

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 林 宗茂

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

北阪神支部 2026年診療報酬改定研究会 感想文

診療報酬“改悪”研究会

協会がわれわれ開業医を代弁



103人の参加者が集まった伊丹会場(4月4日)

協会は6月からの診療報酬改定を前に、県下各地で診療報酬改定研究会を開催。北阪神支部は4月4日、伊丹市・市立産業振興センターで診療報酬改定研究会(医科)を開催し、医師や医療機関のスタッフら103人(70医療機関数)が参加した。参加した伊丹市開業医の先生の感想文を掲載する。

北阪神支部の2026年4月4日(土)診療報酬改定研究会に参加した。当院は零細であり、レセプト提出も院長自ら独自で行っているため、単独参加であるが、毎回この兵庫県保険医協会の研究会は県下で最も早く開催されることもあり会場はほぼ満席状態で立錫の余地もない。

(次のページに続く)

(前のページより)

まずはこのたびの改定であるが、『点数表改定のポイント』の本にもある通り、あらゆる物価上昇や医療従事者への雇用対策に対して10%増(1点11円に改善するだけでこと足りる?)が必要であり、保団連・保険医協会がわれわれ開業医の意志を代弁してくれていたが10%には及ばなかった。

また雇用対策として、弊院は開業して約四半世紀経過するが、25年前の春の兵庫県の最低賃金は現在1116円の約6割の671円であった。国は最低賃金を全国1500円にしようとする増額しているが、対応したベースアップ評価料の加算もその届出が煩雑であり、加算が恒久的である保証もなく、その普及は、とてもじゃないが一筋縄とはいかないものである。

今回の改定でも算定の条件に、新たに届出が必要な項目が多いが、零細の開業医にさらなる煩雑な作業を課すことの無意味さは全然考慮されていないことに、怒りを乗り越して落胆さえ覚えてしまう。

以上、研究会を聴講しての愚痴を恥ずかしながら書き連ねてしまったが、明快な説明講義をされた林支部長、脇野副支部長、司会の澤村支部幹事ならびに事務局各位には謝意を申し上げたい。

伊丹市開業医(医科) H



幹事会だより

第461回 5月7日(木) 参加6人

◆北阪神支部の会員数と組織率

4/30 現在 医科382人(77%)、歯科217人(68%)

◆情勢と医療運動対策

第107回評議員会の支部の発言について確認。宝塚市市政懇談会で森臨太郎市長との懇談会、第38回地域医療を考える懇談会の開催について議論した。

情勢議論では、政府が高齢者の医療費窓口負担を原則3割に引き上げると言っているが、本来は1割に下げないといけぬ。一般的な高齢者は経済的に苦しく、受診抑制につながると発言があった。

マイナ保険証が読み取れない不具合があったとの報告があり、マイナ保険証は業者が喜んでいて、医療情報を企業に売るためだとの意見が出た。

◆次回幹事会

6月4日(木)14時30分～「伊丹産業振興センター 4階会議室B」にて開催予定

お問い合わせはTEL 078-393-1805 小川・大橋まで

会員投稿

自転車青切符

伊丹市 工藤歯科医院 歯科医師 工藤 大八郎

4月から自転車の青切符制度が導入されましたが、私はさまざまな問題を感じています。例えば、母親が小学校低学年の子どもと一緒に、こども園へ子どもを迎えに行く場合、母親は車道を自転車で走り、小学校低学年の子どもは歩道を自転車で走ることになります。このような状況で、どのように子どもの安全を確保できるのでしょうか。

また、大きな幹線道路でも自転車レーンが整備されていないところが多く、車道の走行は普通に危ないと思います。自転車の青切符制度を導入するのであれば、まずはすべての道路に自転車レーンを整備すべきです。

さらに、自転車レーンがあっても、子どもの逆走が見受けられます。子どもには、まだ交通ルールが十分に周知されていないのです。自転車の青切符制度を導入するよりも先に、交通ルールをもっと周知する必要があると思います。警察には、交通ルールを国民に周知する責任があると思います。

少し話は変わりますが、JR三ノ宮駅を降りてすぐ山側に、昼の12時から17時まではビールやハイボールが1杯250円という安い居酒屋があります。そこで昼から飲んでいると、目の前に信号のない横断歩道があり、驚くほど多くの自動車、バイク、自転車が青切符を切られています。人通りが多いのに信号がないため、歩行者を待っていたら車はなかなか通れません。しびれを切らして通行すると、警察が陰に隠れて待っていて、切符を切るのです。まさに警察の取締り場所になっています。ここで問題なのは、信号機が設置されていないことと、横断する人が多いことです。そうした状況を分かったうえで取り締まる警察の対応には、疑問を感じます。信号機を設置すればよいだけなのに、それをしないまま取締りの場にしているのです。このような警察に、自転車の青切符制度の運用権限を与えるのは危険だと思います。

少し話はそれましたが、結論です。すべての道路に自転車レーンを設けること、歩行者の多い横断歩道には信号機を設置すること、国民に交通ルールを周知する取組を行うこと、それらすべてを行ってから、自転車の青切符制度は導入すべきだったと思います。



自転車の交通違反を取り締まる警察官